

V 検算式に差額が出る原因

別表4の2付表と別表5の2(1)付表1の検算式に差額が出る原因として、次の5つが挙げられます。

- 1. [「連結法人税個別帰属額等」の入力が原因となる場合](#)
- 2. [「税効果\(法人税等調整額の内訳\)」RPの入力が原因となる場合](#)
- 3. [「剰余金処分」RPの「繰越損益金」の入力が原因となる場合](#)
- 4. [「留保3\(4表と5表で別々に調整する項目\)」RPの入力が原因となる場合](#)
- 5. [「適格合併等による利益積立金額の引継」RPの入力が原因となる場合](#)

1. 「連結法人税個別帰属額等」の入力が原因となる場合：メニュー401

連結親法人と連結子法人が連結法人税個別帰属額等の決済を行った場合、各連結法人は連結法人税個別帰属額等の未払金又は未収入金の取崩額を、メニュー401＞[連結法人税個別帰属額等]RP＞[別表5の2(1)付表1]タブの各項目の[減]欄に入力する必要があります。

ただし、**当画面の[減]欄に入力した金額は、別表5の2(1)付表1の「減②」のみに反映するため、入力する金額によっては検算式に差額が出る原因となります。**

- (1) [未払金(各法人との連結法人税個別帰属受払額等)]、[未収入金(各法人との連結法人税個別帰属受払額等)]欄 **親法人**

(R03)連結法人税個別帰属額等

774(E) 表示(V) 774(I) 774(W) 774(H)

0000000001：千代田製造株式会社

【令和3年度】

別表4の2付表・別表5の2(2)付表

別表5の2(1)付表1

【別表5の2(1)付表1：連結法人税個別帰属額等の未払金・未収入金】

別表五の二(一)付表一の区分	期首連結個別利益積立金額	当期の申告調整		差引翌期首連結個別利益積立金額
		増	減	
未払金 (連結法人税個別帰属額等)		内 別表4の2付表	内 別表5の2(2)付表	229,368,848
		内 適格合併等	内 上記以外	-229,368,848
		計	計	0
未収入金 (連結法人税個別帰属額等)	△	内 別表4の2付表	内 別表5の2(2)付表	△
		内 適格合併等	内 上記以外	△
		計	計	△
連結親法人のみ入力 未払金(各法人との連結法人税個別帰属受払額等)	9,150,000	内 別表4の2付表	9,516,289	13,296,132
		内 適格合併等		
		計		5,370,157
未収入金(各法人との連結法人税個別帰属受払額等)	△ 35,480,000	内 別表4の2付表	△ 46,398,999	△ 49,345,060
		内 適格合併等	△	△
		計		32,533,939
未払連結法人税個別帰属受取額等	△ 9,143,100	内 個別帰属額届出書	個別帰属額の7/8額の合計	
		内 適格合併等	△	△ 9,143,100
		計		
未収連結法人税個別帰属支払額等	204,241,300	内 個別帰属額届出書	個別帰属額の7/8額の合計	
		内 適格合併等		204,241,300
		計		

1. 「増」の「適格合併等」欄は、適格合併等により引き継ぐ金額の入力欄です。

2. 「未払金(連結法人税個別帰属額等)」の「減」の「別表5の2(2)付表」欄には、「別表4の2付表・別表5の2(2)付表」タブの「当期中の決済額」の「支払額」の「計」から「附帯税分」を控除した金額を表示しています。

F1 前項目

F4入力終了

F7 左タブ

F10処理メニュー

【原因】

連結子法人に対する連結法人税個別帰属額等の未払金・未収入金について会計上と税務上の金額に差額がある場合に、連結親法人が、当該差額を[連結法人税個別帰属額等]RP＞[別表5の2(1)付表1]タブの[未払金(各法人との連結法人税個別帰属受払額等)]又は[未収入金(各法人との連結法人税個別帰属受払額等)]の**[減]欄**に入力している。

【対応方法】

[連結法人税個別帰属額等]RP＞[別表4の2付表・別表5の2(2)付表]タブの[損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額]欄又は[収益として経理した連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額]欄で、当該差額を調整した上で入力してください。

● 会計上と税務上の連結法人税個別帰属額等に差額がある場合

会計上と税務上の連結法人税個別帰属額等に差額がある場合に、次のように入力したときは検算式に差額が出ます。

1. 会計処理

(1) 前期分

① 子法人 S に対する債務の決済

親法人 P は、子法人 S に前期分の連結法人税個別帰属額等 (60,000 円) を支払いました (前期末に連結法人税個別帰属額等の未払金として 75,000 円を計上済み)。あわせて未払金の残額 15,000 円を取り崩しました。

(借) 未払金 (子法人 S) 60,000 (貸) 現金及び預金 60,000

(借) 未払金 (子法人 S) 15,000 (貸) 法人税、住民税及び事業税 15,000

(2) 当期分

① 子法人 S に対する債務の計上

親法人 P は、子法人 S に支払う当期分の連結法人税個別帰属額等 (45,000 円) を未払金として計上しました。

(借) 法人税、住民税及び事業税 45,000 (貸) 未払金 (子法人 S) 45,000

2. 入力画面

以下の画面では、[損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額] 欄に「45,000 円」、[未払金 (各法人との連結法人税個別帰属受払額等)] の [減] 欄に「75,000」円を入力しています。

しかし、当該入力では、検算式に差額が出ます。

■ [連結法人税個別帰属額等] RP の [別表 4 の 2 付表・別表 5 の 2 (2) 付表] タブ : メニュー 401

摘 要	金 額	連結親法人のみ入力 (金 額)
損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額	15	30,000 円 に修正
		45,000

■ [連結法人税個別帰属額等] RP の [別表 5 の 2 (1) 付表 1] タブ : メニュー 401

別表五の二(一)付表一の区分	期首連結個別 利益積立金額	当期の申告調整			
		増		減	
未払金 (連結法人税個別帰属額等)		内 別表 4 の 2 付表		内 別表 5 の 2 (2) 付表	
		連格合併等		上記以外	
		計		計	
未収入金 (連結法人税個別帰属額等)	△	内 別表 4 の 2 付表	△	内 別表 5 の 2 (2) 付表	△
		連格合併等	△	上記以外	△
		計		計	
連結 未払金 (各法人との連結 法人税個別帰属受払額等)	75,000	内 別表 4 の 2 付表	30,000 円 に修正		75,000
		連格合併等	45,000		

上記の入力例では、「(借) 未払金 / (貸) 法人税、住民税及び事業税 15,000」に対応する処理として、別表 5 の 2 (1) 付表 1 では未払金 15,000 円を減少させていますが (上記画面の 75,000 円に含まれています。)、別表 4 の 2 付表では収益計上した「法人税、住民税及び事業税」15,000 円の減算処理を行っていません。そのため、検算式に差額 15,000 円が出ます。

この場合は、[損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額] 欄に 30,000 円 (45,000 円 - 15,000 円) を入力し、未払金 (各法人との連結法人税個別帰属受払額等) の [減] 欄には 60,000 円を入力します。

(2) [未払金(連結法人税個別帰属額等)]、[未収入金(連結法人税個別帰属額等)]の[減]欄 **親法人**

【原因】

[別表4の2付表・別表5の2(2)付表]タブから自動連動された[未払金(連結法人税個別帰属額等)]又は[未収入金(連結法人税個別帰属額等)]の[減]欄の金額を消去していない。

【対応方法】

原則として、[未払金(連結法人税個別帰属額等)]欄と[未収入金(連結法人税個別帰属額等)]欄は、**連結子法人**が使用する利益積立金額です。[未払金(連結法人税個別帰属額等)]欄と[未収入金(連結法人税個別帰属額等)]欄を使用しない場合は、[別表4の2付表・別表5の2(2)付表]タブから自動連動された[未払金(連結法人税個別帰属額等)]又は[未収入金(連結法人税個別帰属額等)]の[減(別表5の2(2)付表)]欄の金額を消去するために、自動連動された金額を[減(上記以外)]欄にマイナス入力してください。

■ [別表4の2付表・別表5の2(2)付表]タブの連結法人税個別帰属額等の発生額・決済額

連結事業年度	期首現在未決済額	当期発生額	当期中の決済額		期末現在未決済額
			支払額	受取額	
▼年 月 日 42					
▼年 月 日 43					
平▼31年 4月 1日 43					
令▼2年 3月 31日 44	80,000		80,000		0
当 期 分		通格合併等			
		附帯税 外	内		
		中 間			
		確 定	個別帰属額届出書から転記		

■ [別表5の2(1)付表1]タブ

別表五の二(一)付表一の区分	期首連結個別利益積立金額	当期の申告調整			
		増		減	
未払金 (連結法人税個別帰属額等)		内 別表4の2付表		内 別表5の2(2)付表	80,000
		通格合併等		上記以外	-80,000
		計		計	0

自動連動された金額80,000円を消去するために、-80,000円を入力

0円となっていることを確認

(3) [未払連結法人税個別帰属受取額等]、[未収連結法人税個別帰属支払額等]欄 **親法人**

連結親法人が、連結子法人と連結法人税個別帰属額等の決済を行った場合は、その税務上の決済額を[連結法人税個別帰属額等] R P > [別表5の2(1)付表1]タブの[未払連結法人税個別帰属受取額等]又は[未収連結法人税個別帰属支払額等]の[減]欄に入力する必要があります。

■ [別表5の2(1)付表1]タブ

別表五の二(一)付表一の区分	期首連結個別利益積立金額	当期の申告調整			
		増		減	
未払金 (連結法人税個別帰属額等)		内 別表4の2付表		内 別表5の2(2)付表	240,591,048
		通格合併等		上記以外	-240,591,048
		計		計	0
未収入金 (連結法人税個別帰属額等)	△	内 別表4の2付表	△	内 別表5の2(2)付表	△
		通格合併等	△	上記以外	△
		計		計	
連結親法人のみ入力	未払金(各法人との連結法人税個別帰属受取額等)	9,150,000	内 別表4の2付表	9,516,289	13,296,132
			通格合併等		
	未収入金(各法人との連結法人税個別帰属支払額等)	△ 35,480,000	内 別表4の2付表	△ 46,398,999	△ 49,345,060
			通格合併等	△	
	未払連結法人税個別帰属受取額等	△ 9,143,100	内 個別帰属額届出書 個別帰属額のマイナス額の合計		△ 9,143,100
			通格合併等	△	
	未収連結法人税個別帰属支払額等	204,241,300	内 個別帰属額届出書 個別帰属額のプラス額の合計		204,241,300
			通格合併等		

しかし、以下のように入力している場合は、検算式に差額が出ます。

【原因1】

連結子法人との決済額のみを入力している。

【対応方法 1】

当欄には、**連結親法人分の決済額も含めて入力してください。**

※未払連結法人税個別帰属受取額等・未収連結法人税個別帰属支払額等は、連結親法人も含めた各連結法人の税務上の連結法人税個別帰属額等の未払金・未収入金です。そのため、連結親法人分の決済額も含めて入力する必要があります。

【原因 2】

中間申告分の決済額を含めて入力している。

【対応方法 2】

当欄には、中間申告分の決済額を除いた金額を入力してください。

● 中間申告分の連結法人税個別帰属額の決済を行った場合

別表5の2(1)付表1の「未払連結法人税個別帰属受取額等」と「未収連結法人税個別帰属支払額等」の「増」欄には、各連結法人の別表5の2(2)付表の**期末現在未決済額**の合計額がそれぞれ自動転記されます。つまり、「増」欄には中間申告分の決済額は含まれていません。

そのため、連結親法人が各連結法人と中間申告分の連結法人税個別帰属額の決済を期中に行った場合は、[未払連結法人税個別帰属受取額等]と[未収連結法人税個別帰属支払額等]の[減]欄には、前期分と中間申告分の決済額の合計額を入力するのではなく、前期分の決済額の合計額をそれぞれ入力します(詳細は196頁を参照)。

■ 子法人 S (赤字) の別表5の2(2)付表

各連結法人の連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額の発生状況等の明細						
連結事業年度		期首現在 未決済額	当期発生額		当期中の決済額	
					支払額	受取額
前期分	43	△8,000				8,000
当期分	44		中間	△6,000		6,000
			確定	△9,000		
計	45	△8,000	△15,000			14,000
						△9,000

■ 親法人 P の別表5の2(1)付表1

1. 前期分と中間申告分の決済額合計(14,000円)を入力した場合

区 分	期首利益 積立金額	当期の増減		翌期首利益 積立金額
		減	増	
未払連結法人税個別帰属受取額等	△8,000	△14,000	△9,000	△3,000

1. 期末現在未決済額と一致しない。
2. 検算式に差額が出る(6,000円分)。



親法人 P が子法人 S に支払った前期分と中間申告分の合計額14,000円を未払連結法人税個別帰属受取額等の「減」欄に入力した場合は、検算式に差額6,000円が出ます。

2. 前期分の決済額(8,000円)を入力した場合

区 分	期首利益 積立金額	当期の増減		翌期首利益 積立金額
		減	増	
未払連結法人税個別帰属受取額等	△8,000	△8,000	△9,000	△9,000

1. 期末現在未決済額と一致する。
2. 検算式に差額は出ない。



親法人 P が子法人 S に支払った前期分8,000円を未払連結法人税個別帰属受取額等の「減」欄に入力した場合は、検算式に差額は出ません。

(4) 連結子法人が決済額を未入力のため、連結親法人の検算式に差額が出る場合 **親法人**

【原因】

連結親法人と連結子法人が中間申告分の連結法人税個別帰属額等の決済を行ったにもかかわらず、**連結子法人**が、[連結法人税個別帰属額等] R P > [別表4の2付表・別表5の2(2)付表] タブで連結親法人との決済額(中間申告分)を入力していない。

※連結子法人が中間申告分の決済額を未入力のため、**連結親法人の検算式**に差額が出る事例となります。

【対応方法】

連結子法人が入力した中間申告分の決済額は、連結親法人の別表5の2(1)付表1の「未払連結法人税個別帰属受取額等」又は「未収連結法人税個別帰属支払額等」の「増」欄の計算上、控除されます。そのため、連結子法人が中間申告分の決済額を入力していない場合は、当該区分の「増」欄が正しく計算されず、連結親法人の検算式に差額が出ます(196頁の入力例を参照)。中間申告分の決済額の入力をしていない連結子法人がある場合は、当該法人に入力するよう依頼してください。

■ 連結子法人の[別表4の2付表・別表5の2(2)付表]タブの連結法人税個別帰属額等の発生額・決済額

連結事業年度		期首現在未決済額	当期発生額	当期中の決済額	
年	月			支払額	受取額
▼	▼	42			
平	31年	4月			
令	2年	3月	35,501,800		
当 期 分		44			
			連結合併等		
			附帯税	外	内
			中 間	13,843,260	13,843,260
			確 定	個別帰属額届出書から転記	

連結子法人において、決済額の入力漏れがないかを確認する必要があります

①決済額を正の金額で入力しているか？
②支払額、受取額を逆に入力していないか？

(5) 仮計算時点の検算式に差額が出ている場合 **親法人**

【原因】

連結親法人の仮計算は、連結親法人分の R P のみで計算が行われるため、連結子法人の R P で入力した中間申告分の決済額は仮計算には含まれません。そのため、連結子法人と**中間申告分**の連結法人税個別帰属額等の決済を行っている場合は、**仮計算時点における連結親法人の検算式には、当該中間分の決済額の差額が出ます。**

【対応方法】

全体計算(メニュー701)を行ってください。全体計算により、検算式の差額が解消します。

(6) [未払金(連結法人税個別帰属額等)]、[未収入金(連結法人税個別帰属額等)]の[減]欄 **子法人**

【原因】

連結親法人に対する連結法人税個別帰属額等の未払金・未収入金について、会計上と税務上の金額に差額がある場合に、**連結子法人**が、当該差額を[連結法人税個別帰属額等] R P > [別表5の2(1)付表1] タブの[未払金(連結法人税個別帰属額等)]又は[未収入金(連結法人税個別帰属額等)]の**[減(上記以外)]**欄に入力している。

【対応方法】

[連結法人税個別帰属額等] R P > [別表4の2付表・別表5の2(2)付表] タブの[損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額]欄又は[収益として経理した連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額]欄で、当該差額を調整した上で入力してください。

● 会計上と税務上の連結法人税個別帰属額等に差額がある場合

会計上と税務上の連結法人税個別帰属額等に差額がある場合に、次のように入力したときは検算式に差額が出ます。

1. 会計処理

(1) 前期分

子法人Sは、前期分の連結法人税個別帰属額(80,000円)を当期に親法人Pに支払いしました(前期末に連結法人税個別帰属額の未払金として100,000円を計上済み)。また、未払金の残額20,000円を取り崩しました。

(借)未払金 80,000 (貸)現金及び預金 80,000

(借)未払金 20,000 (貸)法人税、住民税及び事業税 20,000

(2) 当期分

子法人Aは、親法人Pに支払うべき当期分の連結法人税個別帰属額(210,000円)を未払金として計上しました。

(借)法人税、住民税及び事業税 210,000 (貸)未払金 210,000

2. 入力画面

以下の画面では、[損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額]欄に「210,000円」、[未払金(連結法人税個別帰属額等)]の[減(上記以外)]欄に「20,000」円を入力しています。しかし、当該入力では、検算式に差額が出ます。

■ [連結法人税個別帰属額等]RPの[別表4の2付表・別表5の2(2)付表]タブ：メニュー401

摘 要	金 額	連結親法人のみ入力 (金 額)
損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額	15 210,000	190,000円 に修正

■ [連結法人税個別帰属額等]RPの[別表4の2付表・別表5の2(2)付表]タブ：メニュー401

連 結 事 業 年 度	期首現在未決済額	当 期 発 生 額	当 期 中 の 決 済 額	
			支 払 額	受 取 額
42				
43	80,000		80,000	
44		適格合併等		
		附帯税 外	内	
		中 間		
		確 定	個別帰属額届出書から転記	

■ [連結法人税個別帰属額等]RPの[別表5の2(1)付表1]タブ：メニュー401

別表五の二(一)付表一の区分	期首連結個別利益積立金額	当 期 の 申 告 調 査	
		増	減
未払金 (連結法人税個別帰属額等)	100,000	内 別表4の2付表 210,000 減 適格合併 190,000 計 210,000	内 別表5の2(2)付表 80,000 減 上記以外 20,000 計 100,000

上記の入力例では、「(借)未払金/(貸)法人税、住民税及び事業税 20,000」に対応する処理として、別表5の2(1)付表1では未払金20,000円を減少させていますが、別表4の2付表では収益計上した「法人税、住民税及び事業税」20,000円の減算処理を行っていません。そのため、検算式に差額20,000円が出ます。

この場合は、[損金経理をした連結法人税個別帰属額及び連結地方法人税個別帰属額]欄に190,000円(210,000円－20,000円)を入力し、未払金(連結法人税個別帰属額等)の[減(上記以外)]欄には金額を入力しません。

ポイント 中間分の個別帰属額の決済を行った場合、仮計算時点の検算式(親法人分)に差額が出ます。

連結子法人と期中に**中間分**の連結法人税個別帰属額の**決済**(188頁の画面)を行っている場合は、**仮計算時点における連結親法人の検算式には、当該中間分の決済額の差額が出ます**(連結親法人の仮計算は、連結親法人分のR Pのみで計算が行われるため、連結子法人のR Pで入力した中間分の決済額は仮計算には含まれず、検算式に差額が出ます。)。この場合は、全体計算(メニュー701)を行うことにより検算式の差額が解消します(詳細は196頁を参照)。

2. [税効果(法人税等調整額の内訳)]R Pの入力が原因となる場合：メニュー401

メニュー401>[税効果(法人税等調整額の内訳)]R Pで、[差異確認]欄がゼロとなっていない場合は、検算式に差額が出ます。[差異確認]欄がゼロになるように金額を修正してください。

(R03)税効果 (法人税等調整額の内訳)

0000000001: 千代田製造株式会社 【令和3年度】

【別表4の2付表1へ内訳記載内容】

法人税等調整額(C)	加算区分		減算		
	金額	金額	金額	金額	金額
内訳					
別表五の二(一)付表一の摘要	期首現在連結個別利益積立金額①	連結合併等の別記(当期の増③)	当期の増③	当期の減②	差異(当期首現在連結個別利益積立金額④)
繰延税金資産	-1,245,321,342		-31,064,357		-1,276,385,699
繰延税金負債	3,111,111			236,232	2,874,879
小計	-1,242,210,231		-31,064,357	236,232	-1,273,510,820
計(D)				-31,300,589	
差異確認(C-D)				0	

1. 利益積立金額の増加額を「当期の増③」欄にマイナス金額表示とする場合は、「当期の減②」欄にマイナス金額を入力してください。
2. 利益積立金額の減少額を「当期の増③」欄にマイナス金額表示とする場合は、「当期の減②」欄にマイナス金額を入力してください。

F1 前項目 F4入力終了 F10処理メニュー

3. [剰余金処分]R Pの[繰越損益金]の入力が原因となる場合：メニュー401

[401. 当期純利益・租税公課納付状況等の入力]メニュー>[剰余金処分]R Pで、繰越損益金の計算方法を[実額入力]としている場合に、正しい繰越損益金の金額を入力していないときは、検算式に差額が出ます。実額入力する金額を修正するか、計算方法を[自動計算]に変更してください。

(R03)剰余金処分

0000000001: 千代田製造株式会社 【令和3年度】

【剰余金処分の内容】

処分内容	処分量・積立額 (当期の増③)	取崩額 (当期の減②)
配当(利益積立金を原資とするもの)	100,000,000	
その他社外流出		
利益準備金		
別途積立金	50,000,000	
任意積立金		
繰越損益金	77,000,000	80,000,000

1. 「配当(利益積立金を原資とするもの)」欄には、当連結事業年度に支払の効力が生じる法令第9条の2第1項第6号の配当の額と、法令第9条第1項第12号・第14号の額を入力してください。
2. 剰余金処分等に基づく金額が全くない場合は、「任意積立金」の「処分内容」欄には名称を入力しないでください。

F1 前項目 F4入力終了 F10処理メニュー

4. [留保3(4表と5表で別々に調整する項目)] R Pの入力が原因となる場合：メニュー403

[403. 別表4の2付表と別表5の2(1)付表1で直接申告調整する内容の入力]メニュー>[留保3(4表と5表で別々に調整する項目)] R Pで入力した別表4の2付表と別表5の2(1)付表1の金額の合計額が一致しない場合は、検算式に差額が出ます。[入力データの計]欄を参考にして金額を修正してください。

なお、検算式に差額が出るケースとして、以下に掲げる場合が例として挙げられます。

- 1. 連結子法人の離脱等により、完全子法人株式の帳簿価額を修正した場合
- 2. 子会社株式簿価減額特例(法令119の3⑩)の規定により、連結法人が有する他の法人の株式等の帳簿価額を修正した場合

行	区分名 (4表: 別表4の2付表, 5表: 別表5の2(1)付表1)	期首連結個別利益積立金額	適格合併等による引継額 (別表5の2(1)増)	別表4の2「加算」 別表5の2(1)「増」	別表4の2「減算」 別表5の2(1)「減」	差引 翌期首連結 個別利益積立金額
1	4表 前期売上高計上繰れ認容			加	減	15,000,000
2	5表 先掛金	16,200,000		増	減	16,200,000
3	5表 未払消費税等	-1,200,000		増	減	-1,200,000
4	4表			加	減	
5	5表			増	減	
6	4表			加	減	
7	5表			増	減	
8	4表			加	減	
9	5表			増	減	
10	4表			加	減	
11	5表			増	減	
12	4表			加	減	
13	5表			増	減	
14	4表			加	減	
15	5表			増	減	
16	4表			加	減	
17	5表			増	減	
18	4表			加	減	
19	5表			増	減	
20	4表			加	減	
21	5表			増	減	
22	4表			加	減	
23	5表			増	減	
24	4表			加	減	
25	5表			増	減	
26	4表			加	減	
27	5表			増	減	
28	4表			加	減	
29	5表			増	減	
30	4表			加	減	
31	5表			増	減	
32	4表			加	減	
33	5表			増	減	
34	4表			加	減	
35	5表			増	減	
36	4表			加	減	
37	5表			増	減	
38	4表			加	減	
39	5表			増	減	
40	4表			加	減	
41	5表			増	減	
42	4表			加	減	
43	5表			増	減	
44	4表			加	減	
45	5表			増	減	
46	4表			加	減	
47	5表			増	減	
48	4表			加	減	
49	5表			増	減	
50	4表			加	減	
51	5表			増	減	
52	4表			加	減	
53	5表			増	減	
54	4表			加	減	
55	5表			増	減	
56	4表			加	減	
57	5表			増	減	
58	4表			加	減	
59	5表			増	減	
60	4表			加	減	
61	5表			増	減	
62	4表			加	減	
63	5表			増	減	
64	4表			加	減	
65	5表			増	減	
66	4表			加	減	
67	5表			増	減	
68	4表			加	減	
69	5表			増	減	
70	4表			加	減	
71	5表			増	減	
72	4表			加	減	
73	5表			増	減	
74	4表			加	減	
75	5表			増	減	
76	4表			加	減	
77	5表			増	減	
78	4表			加	減	
79	5表			増	減	
80	4表			加	減	
81	5表			増	減	
82	4表			加	減	
83	5表			増	減	
84	4表			加	減	
85	5表			増	減	
86	4表			加	減	
87	5表			増	減	
88	4表			加	減	
89	5表			増	減	
90	4表			加	減	
91	5表			増	減	
92	4表			加	減	
93	5表			増	減	
94	4表			加	減	
95	5表			増	減	
96	4表			加	減	
97	5表			増	減	
98	4表			加	減	
99	5表			増	減	
100	4表			加	減	
101	5表			増	減	
102	4表			加	減	
103	5表			増	減	
104	4表			加	減	
105	5表			増	減	
106	4表			加	減	
107	5表			増	減	
108	4表			加	減	
109	5表			増	減	
110	4表			加	減	
111	5表			増	減	
112	4表			加	減	
113	5表			増	減	
114	4表			加	減	
115	5表			増	減	
116	4表			加	減	
117	5表			増	減	
118	4表			加	減	
119	5表			増	減	
120	4表			加	減	
121	5表			増	減	
122	4表			加	減	
123	5表			増	減	
124	4表			加	減	
125	5表			増	減	
126	4表			加	減	
127	5表			増	減	
128	4表			加	減	
129	5表			増	減	
130	4表			加	減	
131	5表			増	減	
132	4表			加	減	
133	5表			増	減	
134	4表			加	減	
135	5表			増	減	
136	4表			加	減	
137	5表			増	減	
138	4表			加	減	
139	5表			増	減	
140	4表			加	減	
141	5表			増	減	
142	4表			加	減	
143	5表			増	減	
144	4表			加	減	
145	5表			増	減	
146	4表			加	減	
147	5表			増	減	
148	4表			加	減	
149	5表			増	減	
150	4表			加	減	
151	5表			増	減	
152	4表			加	減	
153	5表			増	減	
154	4表			加	減	
155	5表			増	減	
156	4表			加	減	
157	5表			増	減	
158	4表			加	減	
159	5表			増	減	
160	4表			加	減	
161	5表			増	減	
162	4表			加	減	
163	5表			増	減	
164	4表			加	減	
165	5表			増	減	
166	4表			加	減	
167	5表			増	減	
168	4表			加	減	
169	5表			増	減	
170	4表			加	減	
171	5表			増	減	
172	4表			加	減	
173	5表			増	減	
174	4表			加	減	
175	5表			増	減	
176	4表			加	減	
177	5表			増	減	
178	4表			加	減	
179	5表			増	減	
180	4表			加	減	
181	5表			増	減	
182	4表			加	減	
183	5表			増	減	
184	4表			加	減	
185	5表			増	減	
186	4表			加	減	
187	5表			増	減	
188	4表			加	減	
189	5表			増	減	
190	4表			加	減	
191	5表			増	減	
192	4表			加	減	
193	5表			増	減	
194	4表			加	減	
195	5表			増	減	
196	4表			加	減	
197	5表			増	減	
198	4表			加	減	
199	5表			増	減	
200	4表			加	減	
201	5表			増	減	
202	4表			加	減	
203	5表			増	減	
204	4表			加	減	
205	5表			増	減	
206	4表			加	減	
207	5表			増	減	
208	4表			加	減	
209	5表			増	減	
210	4表			加	減	
211	5表			増	減	
212	4表			加	減	
213	5表			増	減	
214	4表			加	減	
215	5表			増	減	
216	4表			加	減	
217	5表			増	減	
218	4表			加	減	
219	5表			増	減	
220	4表			加	減	
221	5表			増	減	
222	4表			加	減	
223	5表			増	減	
224	4表			加	減	
225	5表			増	減	
226	4表			加	減	
227	5表			増	減	
228	4表			加	減	
229	5表			増	減	
230	4表			加	減	
231	5表			増	減	
232	4表			加	減	
233	5表			増	減	
234	4表			加	減	
235	5表			増	減	
236	4表			加	減	
237	5表			増	減	
238	4表			加	減	
239	5表			増	減	
240	4表			加	減	
241	5表			増	減	
242	4表			加	減	
243	5表			増	減	
244	4表			加	減	
245	5表			増	減	
246	4表			加	減	
247	5表			増	減	
248	4表			加	減	
249	5表			増	減	
250	4表			加	減	
251	5表			増	減	
252	4表			加	減	
253	5表			増	減	
254	4表			加	減	
255	5表			増	減	
256	4表			加	減	
257	5表			増	減	
258	4表			加	減	
259	5表			増	減	
260	4表			加	減	
261	5表			増	減	
262	4表			加	減	
263	5表			増	減	
264	4表			加	減	
265	5表			増	減	
266	4表			加	減	
267	5表			増	減	
268	4表			加	減	
269	5表			増	減	
270	4表			加	減	
271	5表			増	減	
272	4表			加	減	
273	5表</					